

近畿病院図書室協議会 第127回研修会 (事例・研究報告会)

研修部

日 時：2012年3月22日(木) 10:00~12:00
場 所：神戸国際会館 7階 705号室議室
プログラム：

1. 図書室蔵書検索システムの紹介

京都南病院 井上 千聡氏・西村 和代氏

2. 文献複写業務にグループウェアを用いた効果

刈谷豊田総合病院 武田 昭子氏

3. 看護図書のカテゴリを考える

島根県立中央病院 高橋 真由美氏

4. 病図協とともに歩んだ当院図書室の38年

一近畿病院図書室協議会の歴史を概観して一
社会保険神戸中央病院 林 伴子氏
参加者数 35名 (研修部 2名)

1. 図書室蔵書検索システムの紹介

京都南病院における図書館業務の開始当初から現在までについて、各年代や状況にそって図書館サービスを提供してきたことを説明された。

図書室移転前は、カード目録とExcelによる検索システムとで蔵書管理をしていた。図書室移転後、利用頻度の低下を鑑みあらたな利用者サービスを提供したいと考え、Accessによる蔵書検索システムを構築したこと、またその手法についても説明された。

利用頻度も高くなり、利用者の利便性も高まり、なおかつ院内LANにて閲覧可能となったことを述べられた。

2. 文献複写業務にグループウェアを用いた効果

グループウェアを用いた文献複写業務の効果について述べられた。おのおのの業務量調査を

行い、比較し効果をはかろうと運用前後の業務量と時間を計り、その結果グループウェアの活用は図書室として有効であったとの結果を報告された。

3. 看護図書の分類法を考える

看護職へのサービスの充足を検討し書籍の分類法・配架について説明された。自館の分類法の変遷から鑑み他施設の分類を調査・比較された。そして管理側の分類ではなく利用者の立場に立つべく「項目別索引」をヒントに独自のキーワード索引を作成された。また見やすい配架などの提供について述べられた。

4. 病図協とともに歩んだ当院図書室の38年

入職からの現在に至るまでの図書館業務と近畿病院図書室協議会(病図協)とのかかわりについて時系列にそって述べられた。

創設まもない病図協の活動内容や、特に総合目録を作成するにあたり長い年月をかけて編集され、会員館の相互貸借におおいに貢献されたことを報告された。

今回の事例報告は各施設の図書館担当者がいかに利用者への利便性をはかり、かつ図書館業務の効率化にしっかり取り組む姿勢がうかがえた。また4題目の林氏においては長年の病図協への協力について感謝の意を改めて深く述べさせていただきたい。

(文責：畑 美之/大阪警察病院)